# 行 政 視 察 報 告 書

令和　8　年　11　月　4 日

長浜市議会議長　様

長浜市議会議員　　鋒山紀子

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

１．視察等名　　総務教育常任委員会行政視察研修
２．視察期間　　令和８年１０月２８日（水）～１０月２９日（木）
３．視察場所及び目的
　①　静岡県磐田市
　　小中一貫教育とコミュニティ・スクールについて
　②　東京都武蔵野市
　　学校給食を核とした食育の推進について
４．調査内容感想等

・視察の目的

①について、本市が進める「長浜市学校園の適正規模・適正配置に関する基本方針」に基づく統合等の円滑な推進、単なる統廃合にとどまらない「教育環境の質の向上」および「地域力と連携した教育体制の構築」に向けた先進的知見を得るために視察した。

②について、土岐字の運営体制や持続可能な食材調達、食を通じた児童生徒支援など先進的な知見を得るために視察した。

・視察内容

磐田市（人口約 166,000 人、約児童生徒数 12,000 人）では、従来の学区ではなく「学府」を設定し、子どもの生活圏や地域コミュニティの範囲と教育区分を完

全合致させている。主な特徴は以下の通りである。
〇9 年間を通じた学びの連続性と地域総がかりの教育、地域全体で子どもを育む体制の確立。
〇独自の教育課程とカリキュラムマネジメントとして、地域力や一人ひとりのニーズに応じる磐田市ならではの教育を展開。
〇CSD・CSC との緊密な連携、地域参画型教育を推進。その成果として、子どもたちの安心感、学びの継続性に寄与、不登校率の大幅改善につながっている。

武蔵野市（人口約 147,000 人、児童生徒数約 8,000 人）では一般財団法人による運営形態を採用、国の給与基準に準じた良好な待遇を確保することで、調理・栄養管理スタッフの安定的な定着と高い質の給食維持を実現している。
また近隣農家から有機食材供給、調理体制を伝統的に継続、独自の指針に基づき栄養面、安全面に配慮された給食を提供、地域の実情に応じた自校式、共同調理場方式、親子方式等柔軟に併用、都の補助事業を活用
給食を活用した不登校支援（スマイル給食）を実施、財団への委託事業とし、「給食を食べにおいで」の呼びかけとともに居場所を提供することで、登校に不安や行きづらさを抱える児童生徒の受け入れにもつなげている。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

静岡県・磐田市について→本市における「学校園の適正規模・適正配置に関する基本指針」基づく推進にあたっては、以下の視点を反映してはどうかと考える。
①単に統合するだけでなく地域コミュニティと教育区分を意識した単位の設定小中 9 年間の教育課程の連続性を担保する。②本市の地域資源を生かした独自教育を位置づけ、CSD 等の仕組みを活用した「地域総がかりの教育体制」の構築する。③不登校予防や一人ひとりに寄り添う教育環境を整え、統合に対する不安解消するとともに、本市の教育の質を向上させる。これらの考え方が必要ではないかと磐田市を視察して思いました。
東京都・武蔵野市について→市域、児童生徒数における本市との違いを踏まえつ

つ、安全・質の高い学校給食の供給体制、食育の推進、不登校支援等学ぶ点が多くありました。まず、1.「スマイル給食」をモデルとした給食提供による不登校児童生徒の居場所づくり、本市でもこの視点を重視してはどうかと思います。2.中学校給食の無償化に向けて、財源確保と体制整備を研究、検討を進めてはどうかと思う、3.明確な調理指針を設け現在も取組んでいる、地産地消に更に力を入れる、有機食材を視点に更に進める、また本市の「長浜市教育振興基本計画」の食育の推進を更に独自の食育計画とし進める、拡充することが重要と思いました。